

2022年11月の行事予定表

1	火		16	水	
2	水		17	木	祈禱会
3	木	祈禱会	18	金	
4	金		19	土	礼拝式
5	土		20	日	
6	日	永眠者記念礼拝式、墓前礼拝式	21	月	
7	月		22	火	
8	火		23	水	
9	水	同上	24	木	祈禱会
10	木	祈禱会	25	金	
11	金		26	土	
12	土		27	日	アドベント①礼拝式
13	日	礼拝式、教会役員会	28	月	
14	月		29	火	
15	火		30	水	

# 教会月報

2022年11月

No.378

岡山ナザレン教会 月報編集委員会

## 人を分け隔てしない

「わたしの兄弟(姉妹)たち、栄光に満ちた、わたしたちの主イエス・キリストを信じながら、人を分け隔てしてはなりません。」

新約聖書 ヤコブ2章1節

現在、世界には78億4183万人の人口を数えます。これらの人々が食べる食料はおびただしい量でしょう。国々はそれぞれの社会体制を取り、資本主義自由社会を民主的にとる国もあれば、共産主義・社会主義社会を目指す国々もあります。また、安全保障体制も、武装して他国の侵略を防ぐ防衛体制を取る国もあれば、他国との軍事同盟を結ばず、非武装中立主義を貫く国もあります。実に様々ですね！

今日、世界中で起こっている事柄に、分断、格差社会が存在します。また、人種差別や偏見、いじめ等、人類が存在する限り避けられないと思うのは私だけでしょうか？ 非常に残念です。

さて、聖書において、イエス・キリストは何とされているのでしょうか？ イエス・キリストを信じて生きた人物が書き記したヤコブ書から神の御心を知りましょう。そこには、2章1節から「人を分け隔てしてはならない。」と語ります。わたしたちは外見上で人を判断して、人の価値を定めようとする傾向があります。しかし、人の実際の価値はそれ以外にもあることを悟らせてくれるのが今月の聖句です。

神は、わたしたちを選ばれる時、どのような基準で選ばれると思われませんか？ それは、自分自身が弱い者という自覚と共に、罪(神に対する罪と人に対する罪の両方が含まれます)を犯してしまう者としての自覚に基づき、助けを求める者であります。ヘルプ・ミーと叫ぶ人間に近づいて下さる神の愛に触れさせていただきましょう。

牧師 永松 清

### 編集後記

- ◇ 今月号は永松先生ご夫婦との思い出を大田聖子先生が書いてくださいました。あまりにありすぎて書ききれない様子でしたが、誌面の制限の中苦勞して仕上げてくださいました。言葉に出来なかった思いも含めて感謝いたします。
- ◇ 宗教改革記念日に改めて聖書に帰る姿勢を大切にしたいと思わされます。異端と言われる多くが、聖書やキリストの十字架の救いより別の教本や教祖を高位に位置づけています。私たちは良い行いや高額の献金や滅私の奉仕によってではなく、神様からの恵みによって救われたということを感じたいと思います。



# 宗教改革記念日

10月31日は、マルティン・ルターが宗教改革を始めたことを記念する宗教改革記念日です。日本をはじめ多くの国のプロテスタント教会では10月31日に近い日曜日(今年は10月30日)に宗教改革記念礼拝が行なわれます。(《ハロウィン》と同じ日ですが、全く関連はありません。) この日には、ルターが作詞作曲した讃美歌「神はわが砦」(讃美歌 21~377 番)が歌われます。



学校の世界史で習った覚えのある「宗教改革」ですが、あらましをおさえておきましょう。

1517年10月31日、宗教改革は当時のローマ・カトリック教会からプロテスタント教会が独立した運動・記念行事と見られがちですが、この改革の根本的な意図は教会組織の改革ではなく、信仰の改革でした。すなわちそれは、聖書の御言葉に立ち返る運動であり、聖書のみが証しする神の恵みによって、人は救われ、その恵み深い神への「信仰」によってのみ人は義人とされるということでありました。

永松先生がいつも語られる、「行為義認でなく信仰義認」の原点が、ルターの開眼したローマの信徒への手紙のパウロの言葉「神の義は信仰に始まり信仰に至らせる」(ローマ1・17参照)にあったのです。救いへの道は人間が神の恵みにふさわしくなろうとする努力にあるのではなく、神を信頼し自らをゆだねる信仰のなかにのみあることをルターは確信して、改革を始めたのでした。

“私たち『ナザレン教会』のルーツである『メソジスト』の創始者・ジョン・ウエスレーは、ロンドンでルターの『ローマ書講解』(説教集)を聴き、衝撃と安らぎを得る体験をしたそうです。自らが罪を悔い改めた時に既に十字架によって救われているという『信仰の確証』を得ることが出来た。それにより、『聖化』の思いを確信したウエスレーは生まれ変わったように各地で福音を述べ伝えるようになったそうです。~2017年10月 K. Y. 兄の奨励より ”

## K.O. 姉記念会

10月16日(日)午後1時から故 K.O. 姉の記念会が行われました。姉妹の長男ご一家も参列され故人を偲びました。写真は挨拶をされる O 兄とご家族です。



## 奨励要旨 8月28日

『聖霊の恵みって?』(使徒言行録 2:38-39)

聖霊って…何でしょう?

K. Y. 兄

ざっと調べても「三位一体の一つ」「第三の位格」とか…非常に難しい。

聖霊が聖書に登場するのは神様が天地創造された創世記の初めからです。聖書の冒頭部分から聖霊は登場しています。また怪力でおなじみのサムソンは聖霊によってその力を得ていました。またダビデが新たな王としてサムエルから油を注がれる場面でも聖霊は登場します。しかし、聖霊は旧約の時代は一部の人に限定的に働かれるにすぎませんでした。

しかし新約の時代となり、大きな変化が訪れました。「イエス様を信じたすべての者に聖霊が宿る」ようになりました。これはイエス様が地上を離れる代わりに神様が私たちの「助け手」として聖霊を送って下さったからです。

では聖霊の働きや恵みとは具体的にはどのようなものでしょう?

第一は「新しく生まれかわることが出来る」ことです。

聖霊の力に満たされてあのパウロはその後の宣教の働きに励むことになりました。まさしく生まれ変わったと言える実例です。

第二に「キリストを証しする力を得る」ことです。

イエス様の恵みを伝えるには聖霊の助けが不可欠です。

第三に「信仰告白も聖霊の恵み」です。それは前述のパウロが伝えています。洗礼式ではちゃんと「父と子と聖霊の名によって」バプテスマが与えられます。そう、信仰告白も聖霊によって与えられているものなのです。

第四に「真理を悟ることが出来る」のも聖霊の恵みです。

ここで語られている真理とは「イエス様が世を救うためにこの世に来られたこと」そして「わが子を犠牲にするほど神様は私達を愛されている」ということです。イエス様の弟子たちも最初はそれを理解できませんでした。それを理解するためには聖霊の働きが必要でした。そしてその聖霊によって聖書が記されたのです。

しかし聖霊が宿ってくださっている(内住)からといって、聖霊に満たされているとは限りません。クリスチャンでも信仰の揺らぎや悩みに直面することは多々あります。ではどうすれば聖霊に満たされるのでしょうか?

それは「神様に聖霊の働きを祈り求めること」しかありません。

常に神様に聖霊で満たされるよう祈り求めていきたいと思えます。



## 共にある恵み

永松師ご夫婦との  
出会いから

大田 聖子 師

永松先生と初めてお会いしたのは五十年ほど前の神学校です。

先生の第一印象は「配慮の人」でした。結婚を機に東京に住んだ私にとっていつも面白いことを言っては心を軽くしてくれる 主から遣わされた配慮の人でした。

大田師も私も、神学校で生まれた長男も幾度となく助けられました。淑子姉妹と初めてお会いしたのも神学校でしたが、親しく主にある交わりをさせていただくようになったのは山陽四国地区でお会いしてからです。全国連合女性会の会計と書記の任を共に担った頃から 主に在る姉妹になりました。

十年ほど前に 家族が大きな試練にあつたとき、ほんとに親身になって祈ってください、助けてくださいました。家族で礼拝に伺うと、お身体の弱い淑子姉妹が自分の身体のことは何も言わず、大田師と私の身体を心配してください、家族皆を案じてくださいました。その言葉に、どれほど力づけられ支えられたことが…今でも思い出す度に主に感謝! 永松先生ご夫妻に感謝! です。永松先生のウィットに富んだ言葉も、淑子姉妹の優しい言葉も、主の愛で満ちています。

お一人とも地上で主がかわせてくださった大切な存在であることを幾度主に感謝申し上げたか分かりません

また、永松先生は 教団にとっても他の人が代わることでできない必要な存在です。教団の行く末を見極める鋭い視点と愛に溢れる対応は欠くことのできないものです。この度引退されるとお伺いし、教団にとっても大きな損失になることと残念に思います。

先生ご夫妻のこれからの歩みが、ますます主の祝福に満ちたものでありますよう家族皆でお祈りいたしております。

永松先生ご夫妻との交わりはまるで詩編の御言葉の様。

「見よ、兄弟が共に座している。なんといい恵み、なんといい喜び。」

詩編百三十三篇一節

